



種
作

園貞画

根源

常徳

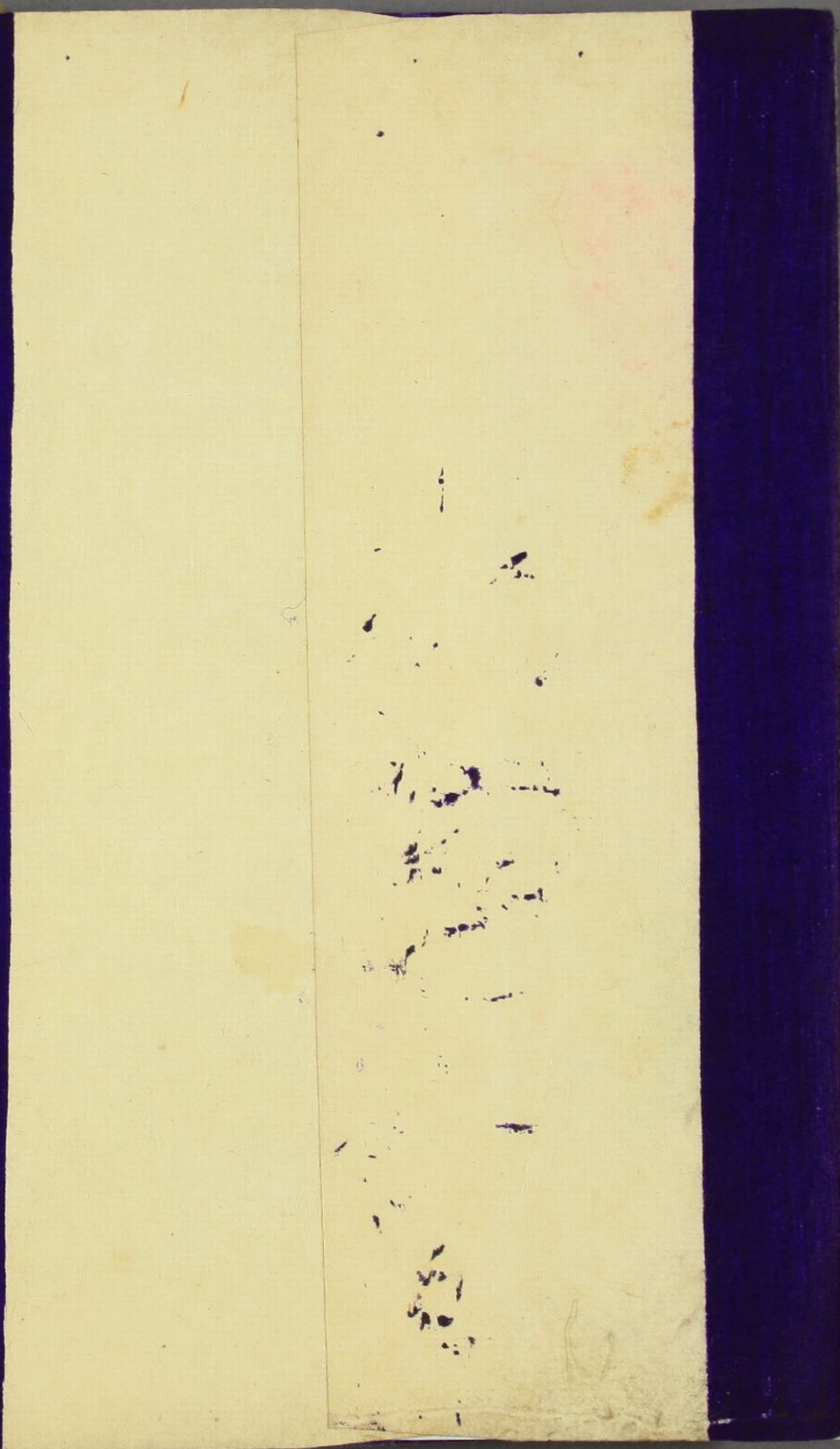
常徳
抄

目録

五



根え源げん實み紫むらさき
五
上の卷うわのまき
九こ五



紫女の歌に中子

終毛もろもろのあひ

この歌は

にきき

あやう何人

いつのまへ

江洲の権女

終二

権女の名を假りて

其人とまれば

江口阿曾比香炉



根源

實紫

上卷

笠亭仙果作
梅蝶樓國負画

泉
喜
太
板



其世系九

幼年の
時の事



式部のおつとむ
 女まのたちの
 りごら
 あれど
 りごら
 男

式部
 女まのたちの
 りごら
 あれど
 りごら
 男

式部
 女まのたちの
 りごら
 あれど
 りごら
 男

唯規齋院の
後吉へ
おもむ



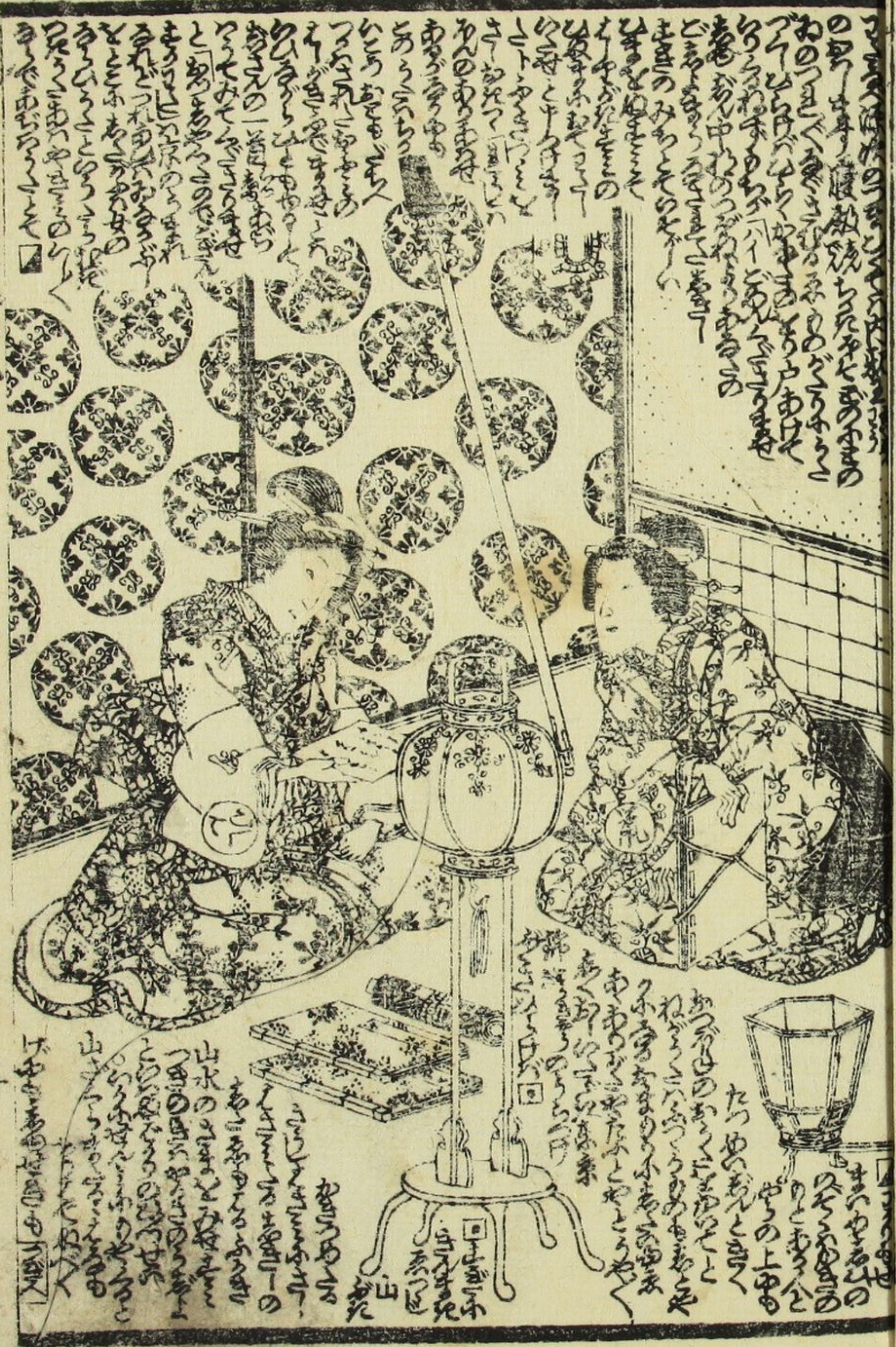
丙辰履端

新刊

香炉の外宮木如意孔雀も亦提女紀の裁り尚時の名
妓史あふ如に拙稿ゆのあは解蟹島の地名家辨とまろの吾
所為之賓客と迎るる昔の必かるあまの海賊丸の笛
の松まは天の荒る事花織のたよる
も斎院の扱惟規系九殿の秋あめ
七編の序にのりゆめを解の都て根を
茶生蔓延て世世も踏かかてく
るのける
玉葉を来にあり

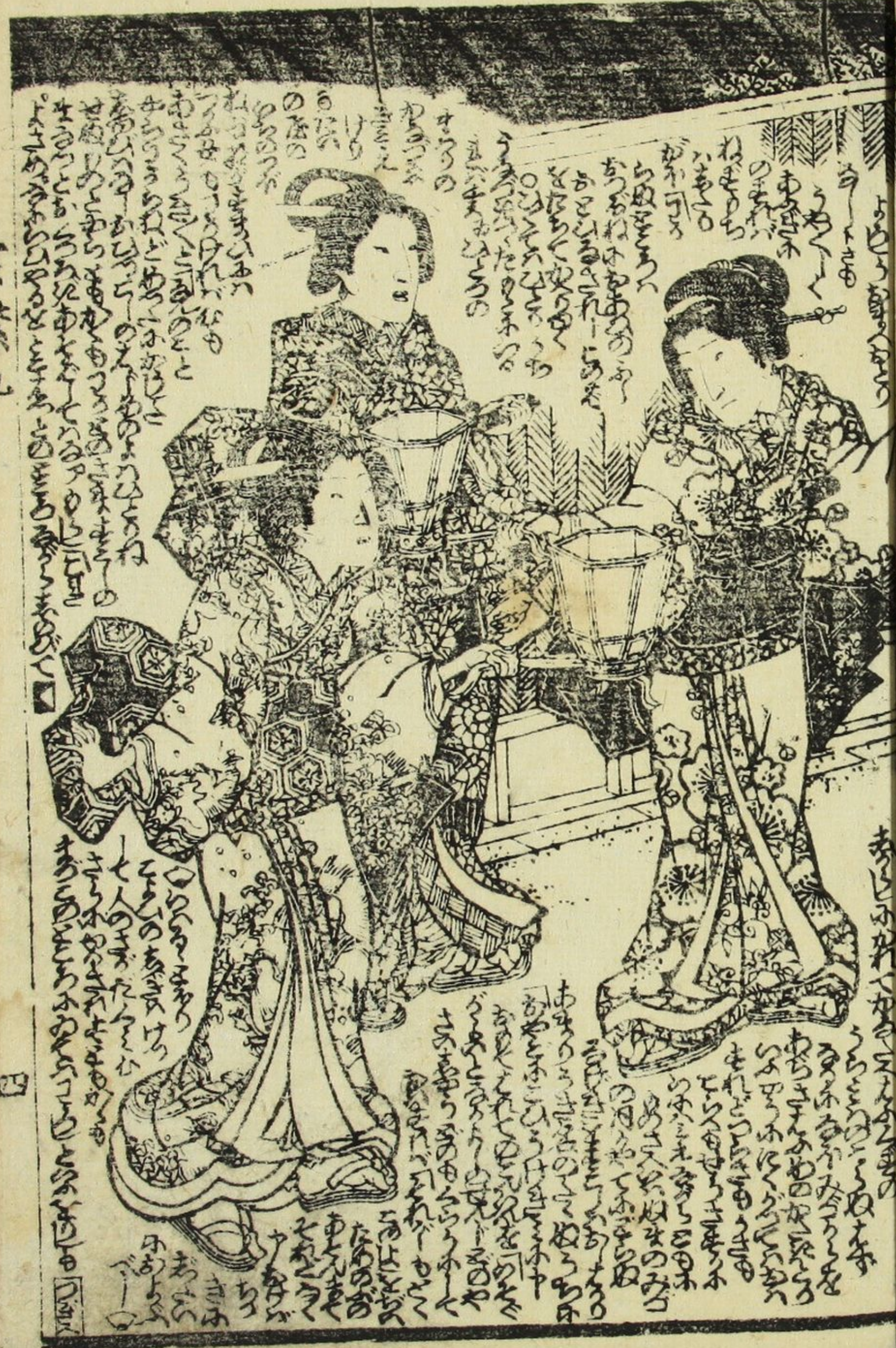
笠亭仙果作

梅蝶樓國貞画

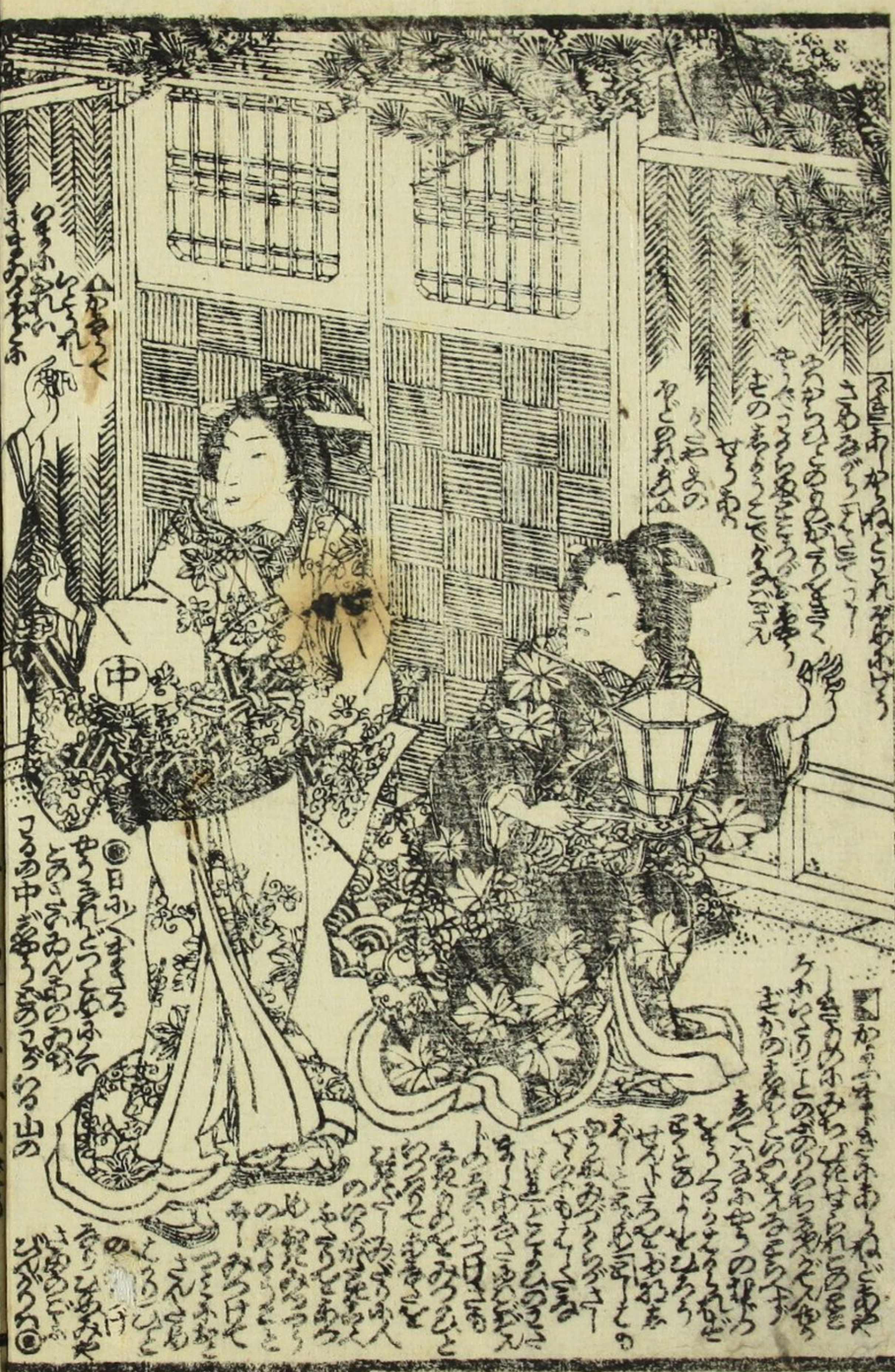


のりし年... 履端... 丙辰... 斎院... 唯規... 後吉... おもむ

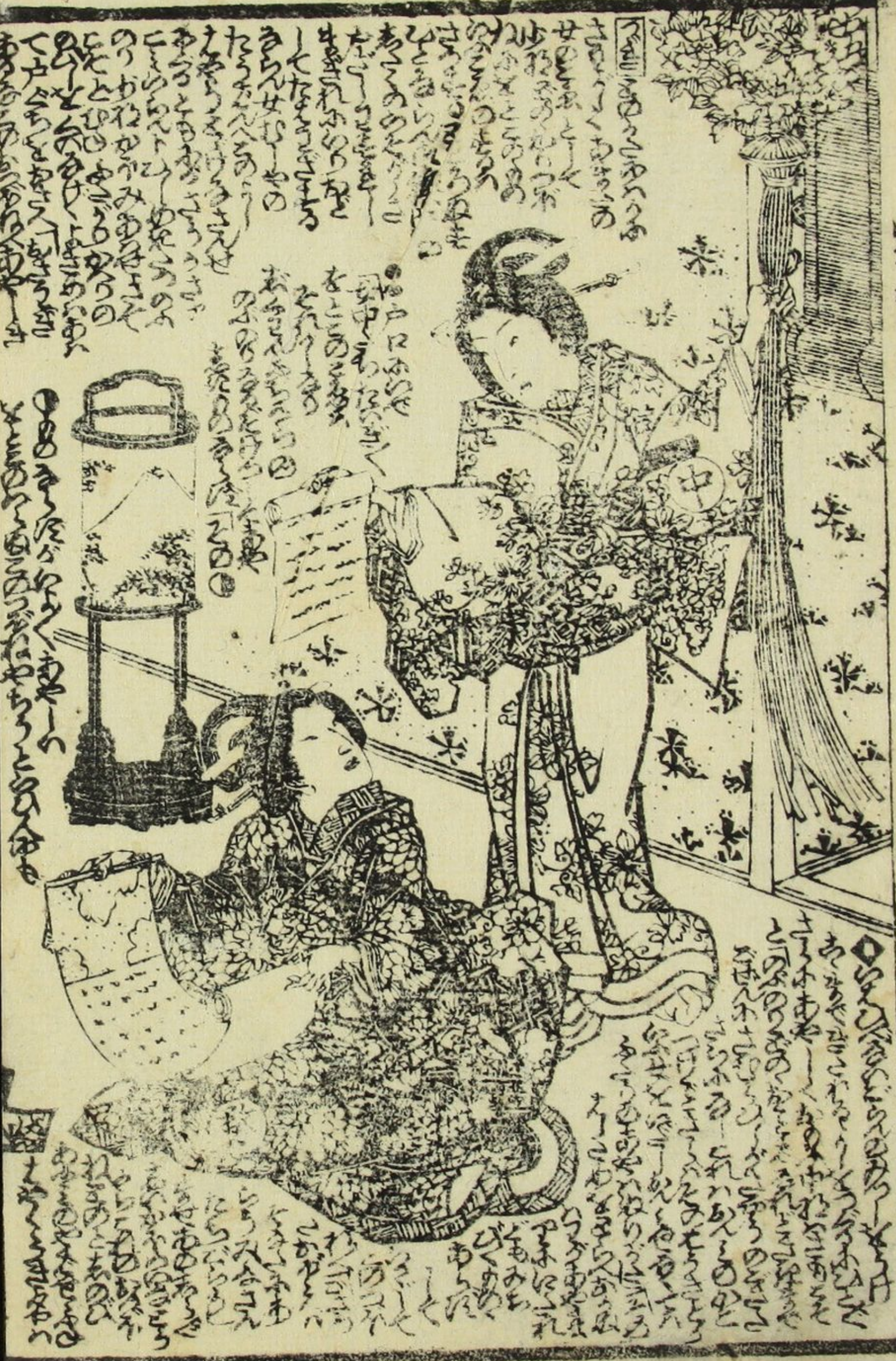
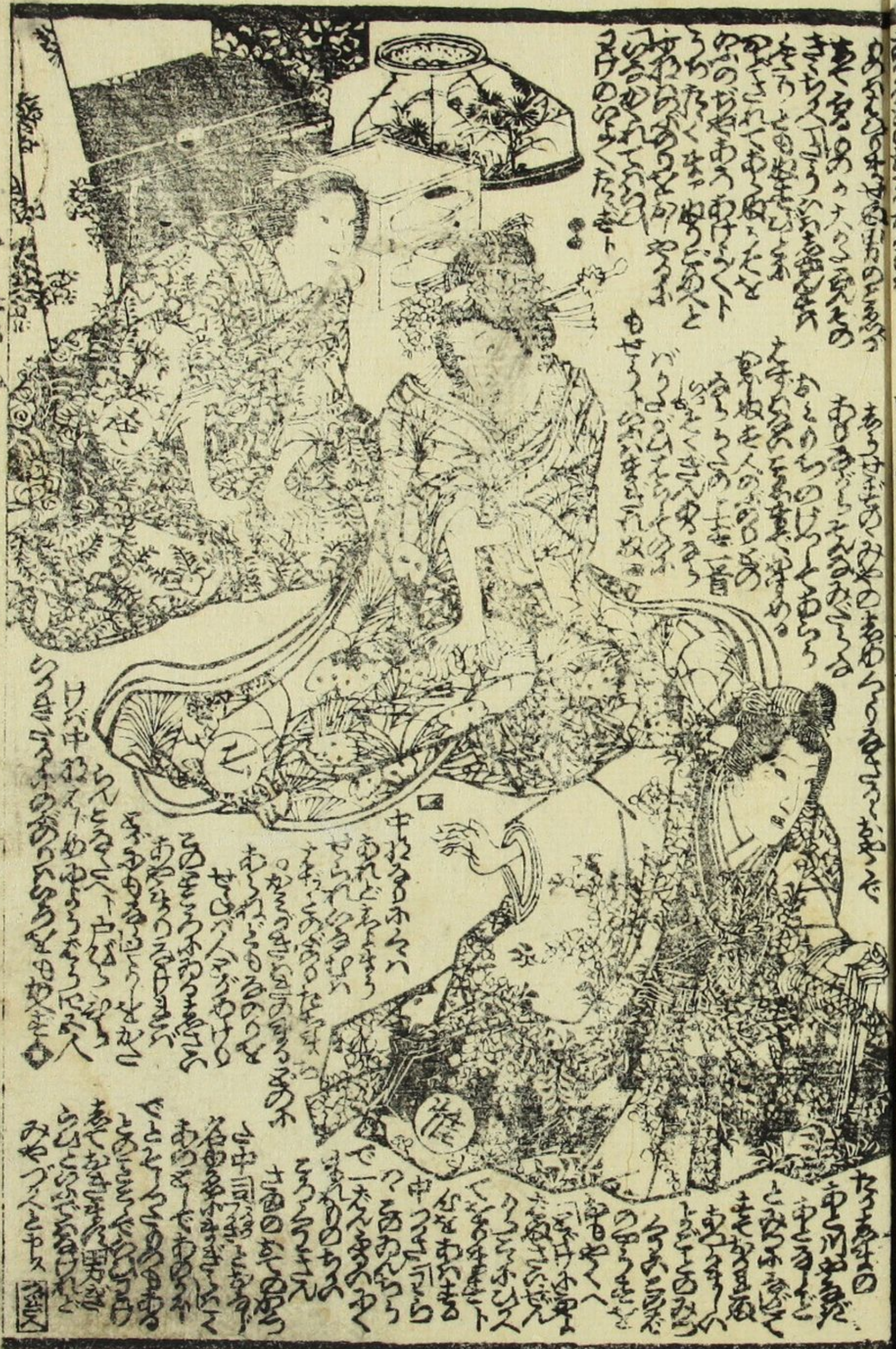
山水の... 梅蝶樓... 國貞... 仙果... 笠亭



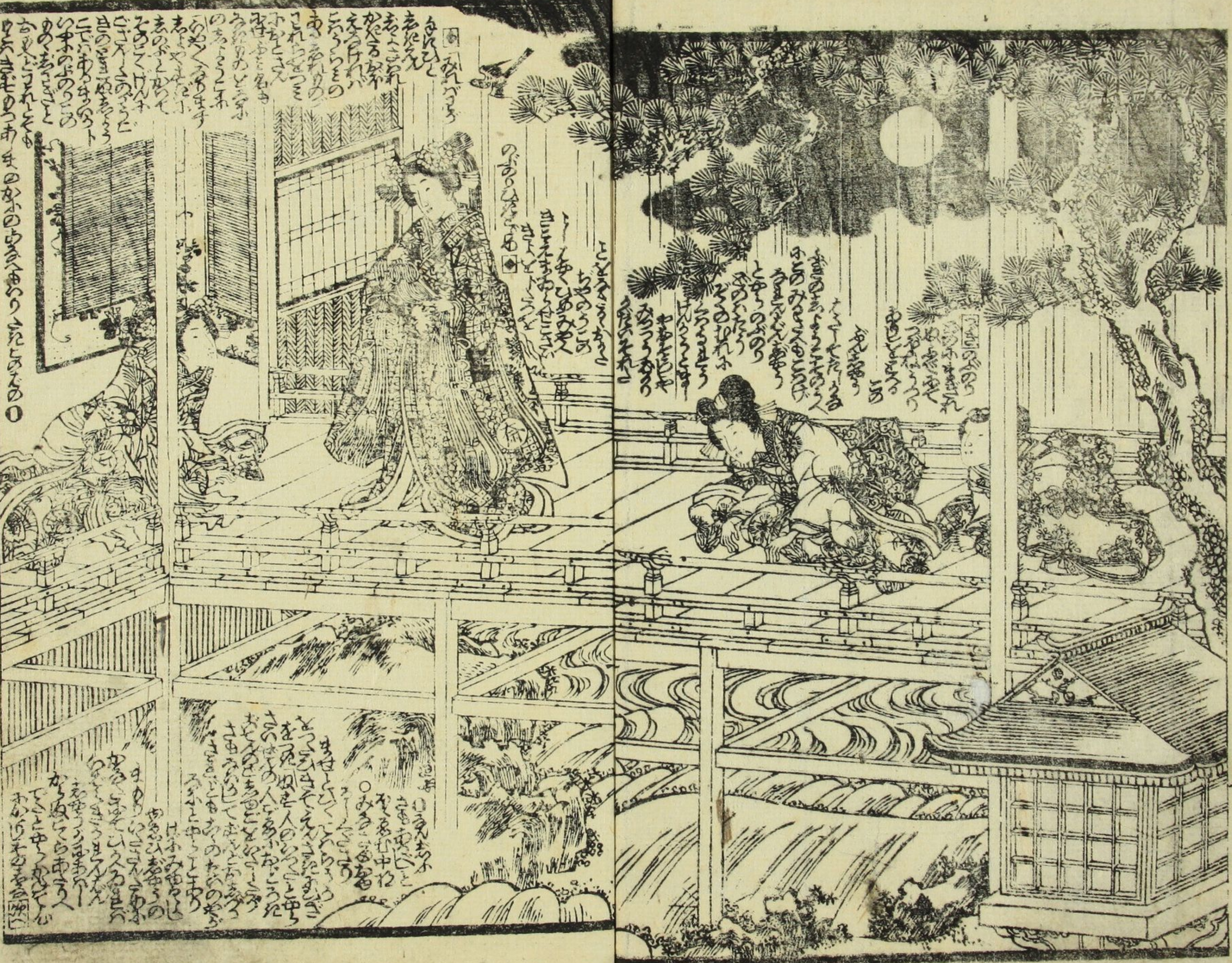
Vertical columns of Japanese text surrounding the illustration on the left page. The text is written in a traditional style, likely providing a narrative or commentary on the scene depicted.



Vertical columns of Japanese text surrounding the illustration on the right page. The text continues the narrative or commentary from the left page.



東洋



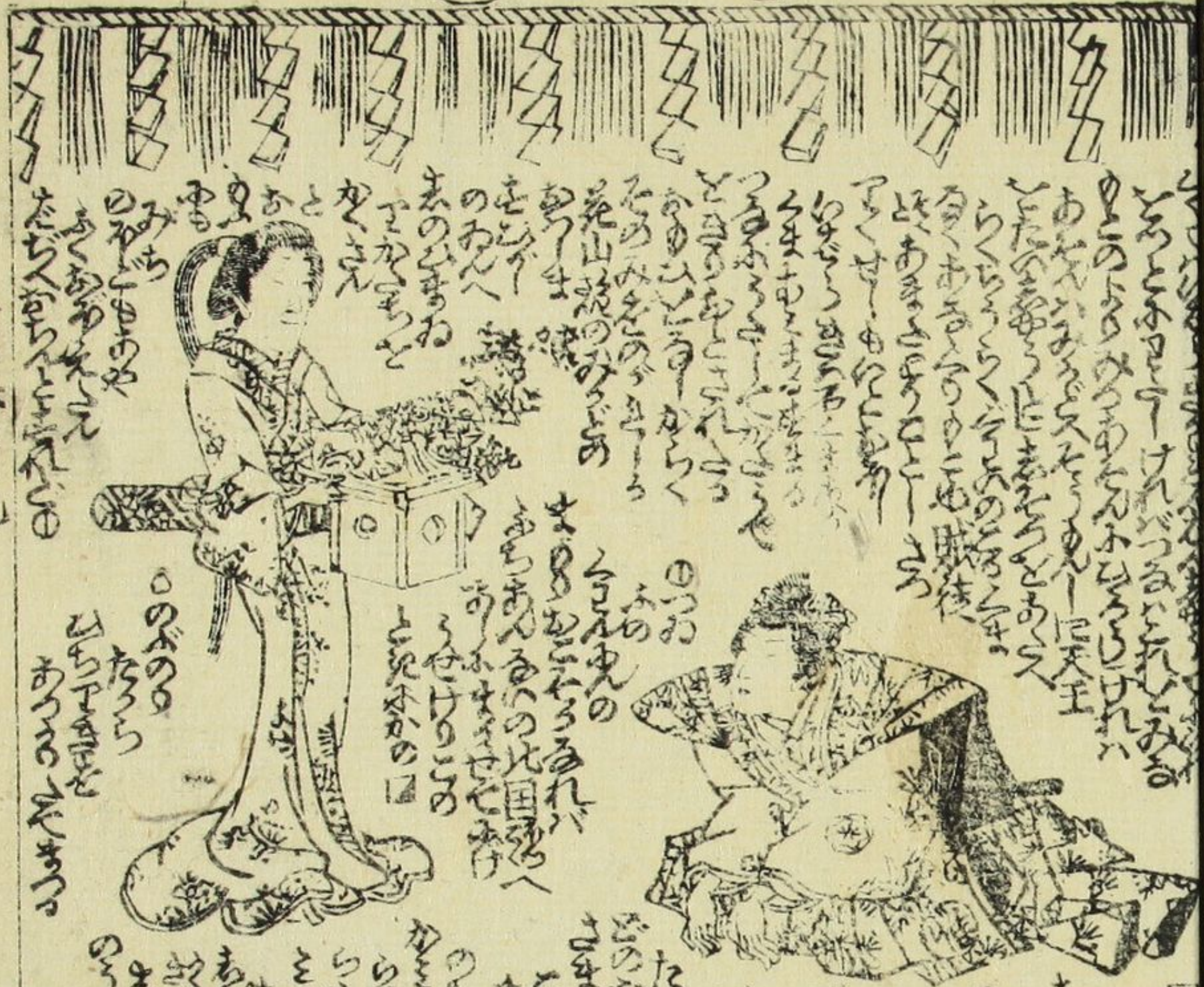
おれは
 あんな
 文筆
 これら
 手紙
 のうら
 まさ
 あま
 どの
 さの
 こころ

〇
 の
 うら
 まさ
 の
 こころ

おれは
 あんな
 文筆
 これら
 手紙
 のうら
 まさ
 あま
 どの
 さの
 こころ

おれは
 あんな
 文筆
 これら
 手紙
 のうら
 まさ
 あま
 どの
 さの
 こころ

おれは
 あんな
 文筆
 これら
 手紙
 のうら
 まさ
 あま
 どの
 さの
 こころ



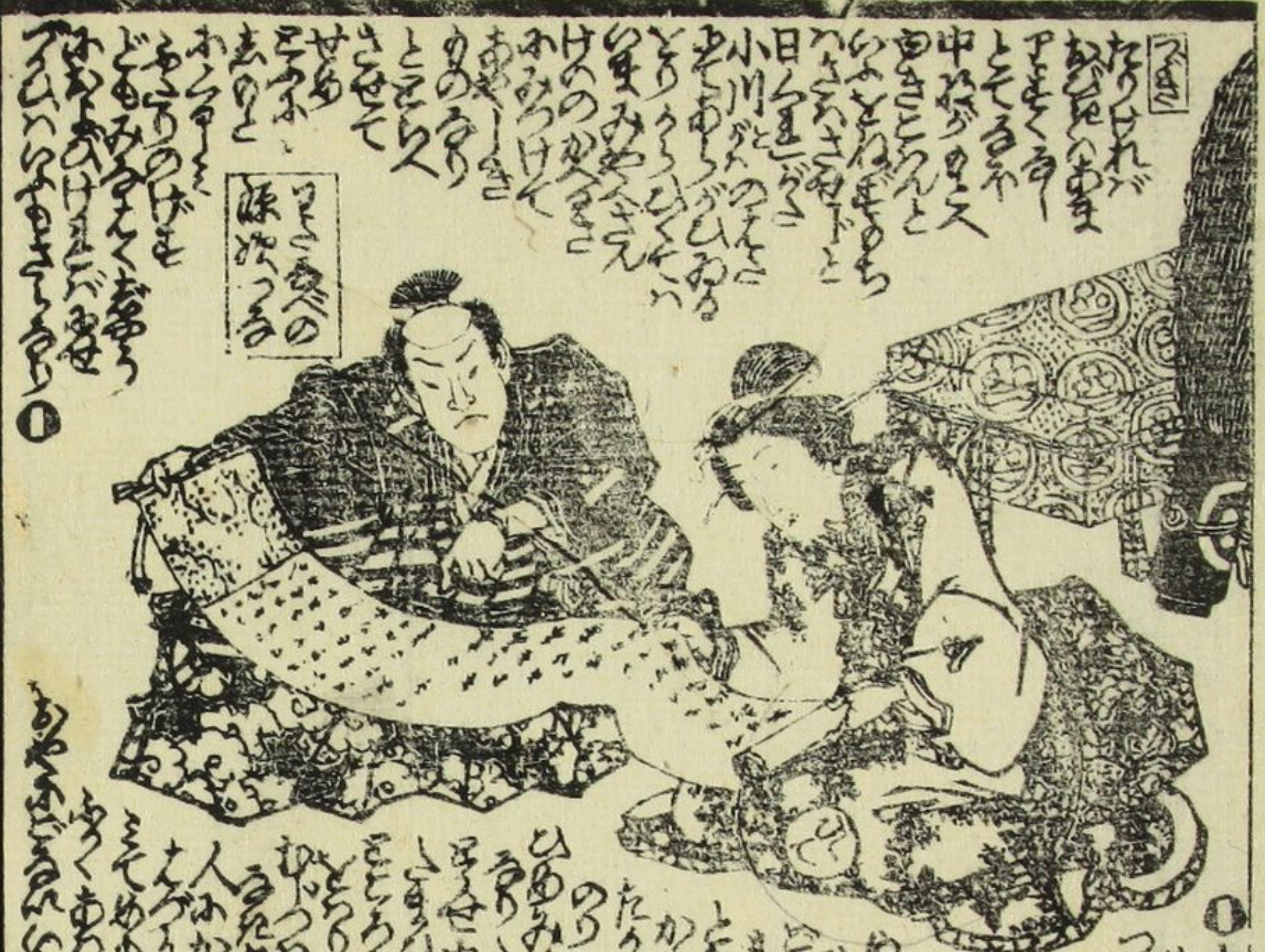
花山流のふらふら
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは

美世系九

おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは

おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは

十一



おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは

おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは

おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは

おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは
おのれをいふは



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a preface or introductory notes.



Vertical text on the right edge of the top page.

Vertical text on the right edge of the bottom page.

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、



一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

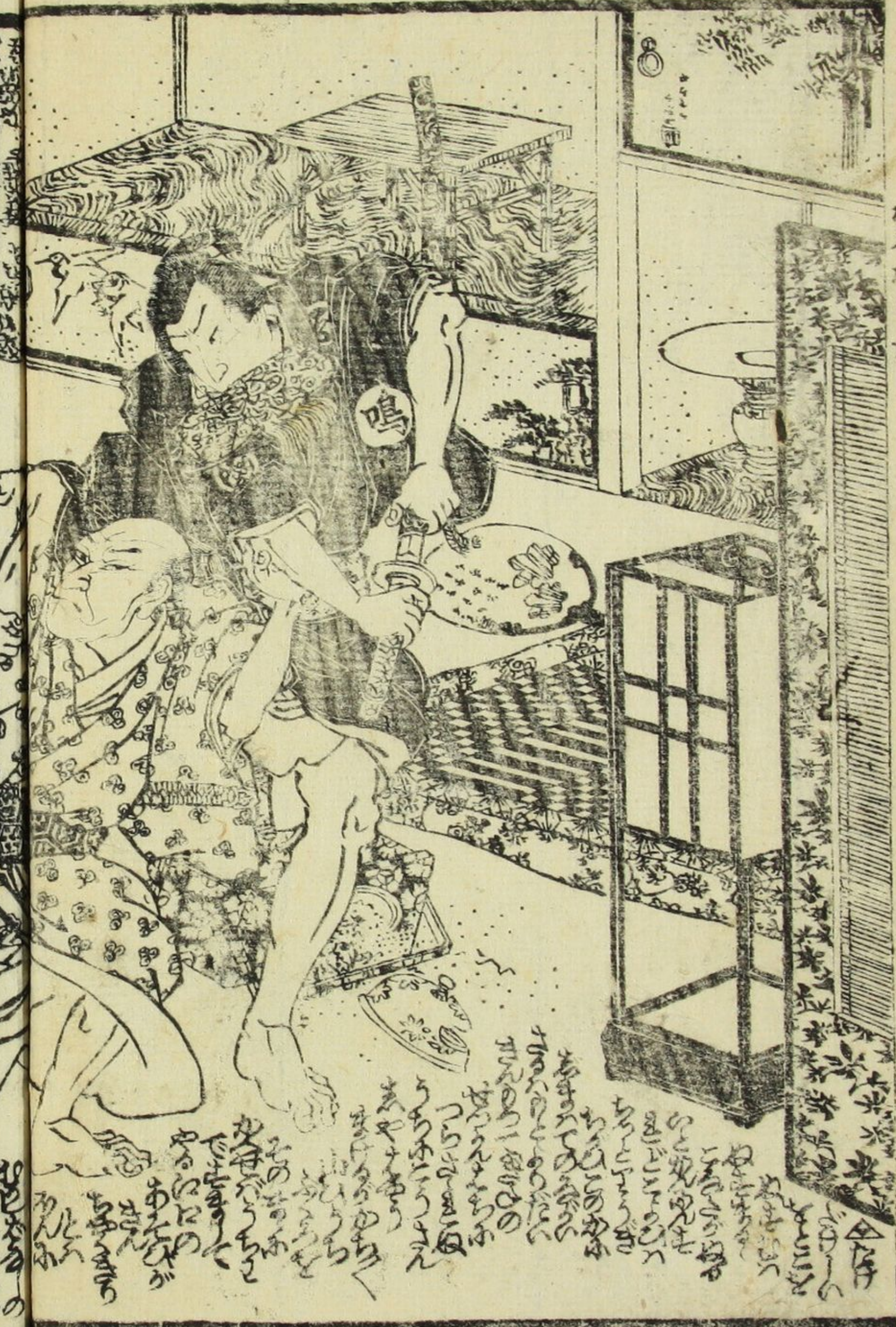


一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

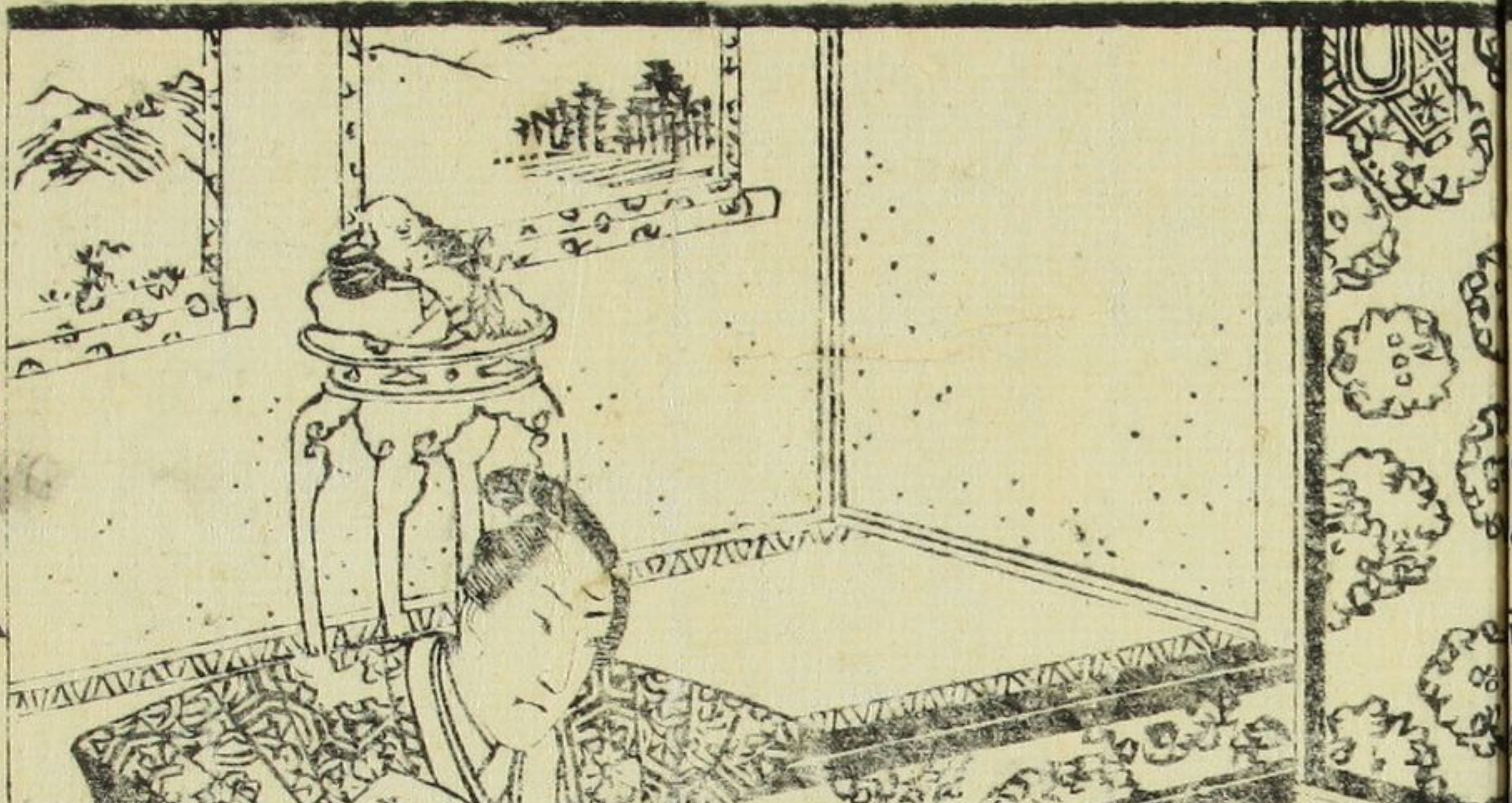
Handwritten text in vertical columns, likely a preface or introductory text. The characters are dense and written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary. The text is organized into several distinct blocks.

Handwritten text in vertical columns, concluding the section. The text is dense and fills the lower portion of the page.



Handwritten text in vertical columns, located at the bottom right of the page, possibly a signature or a note related to the illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns, located below the illustrations on the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.

Vertical text on the left margin of the left page.

Handwritten Japanese text in vertical columns at the top of the right page.



Handwritten Japanese text in vertical columns at the bottom of the right page.

Vertical text on the right margin of the right page.

Vertical text on the right margin of the right page.



處女
梭手子

機織女
倭文姫



古川合持
御詠掛織
五所

松崎

右衛門佐藤原宣孝

頭文紗の

地文

新不注文

まろ所

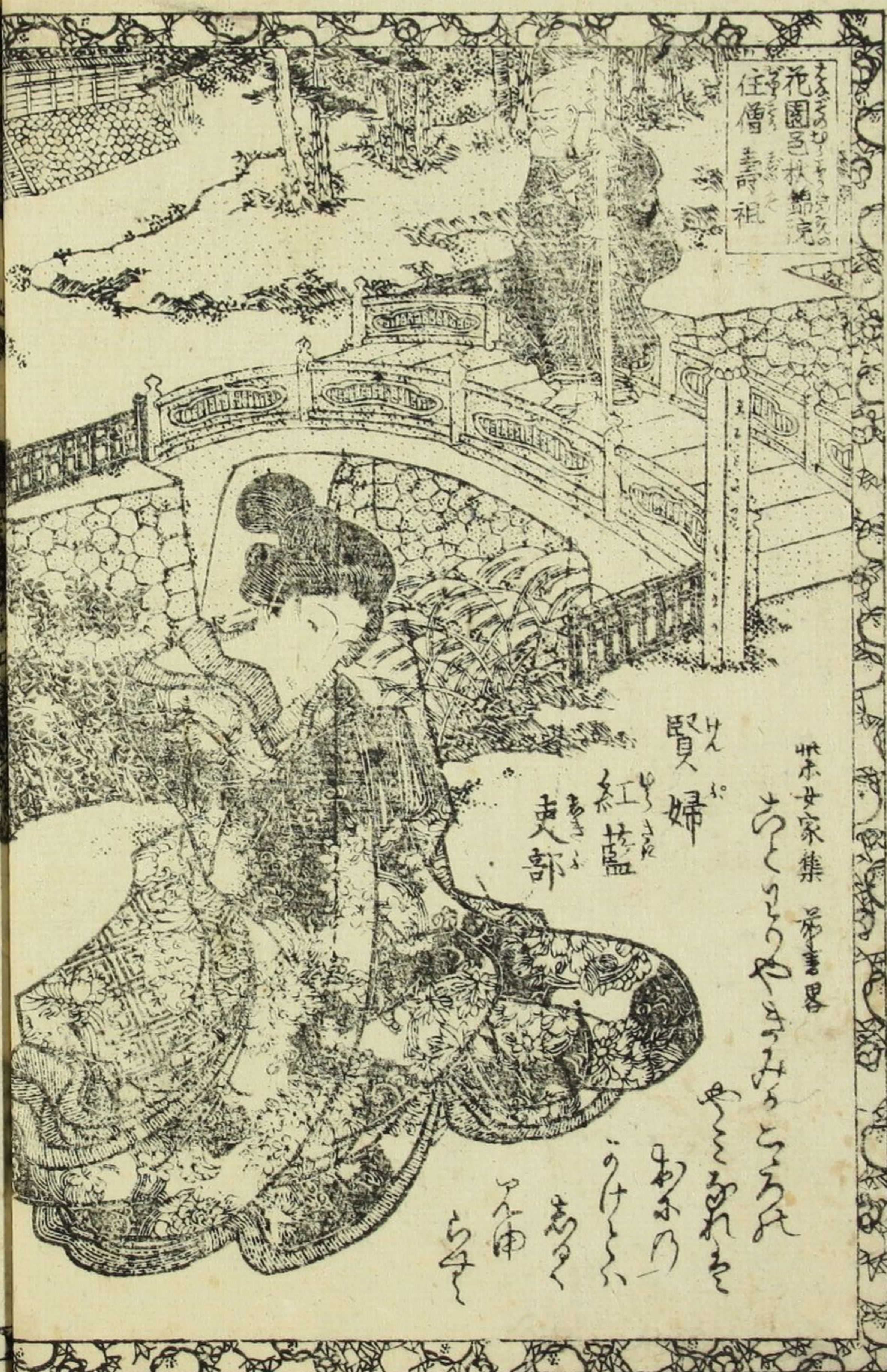
四年をり以往

あろろろろ

本文小ろ



淡海刺史顯猷
孝子女鳥兒



花園
任僧
壽祖

賢婦
紅藍
吏部

世本女家集
弟書畧
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

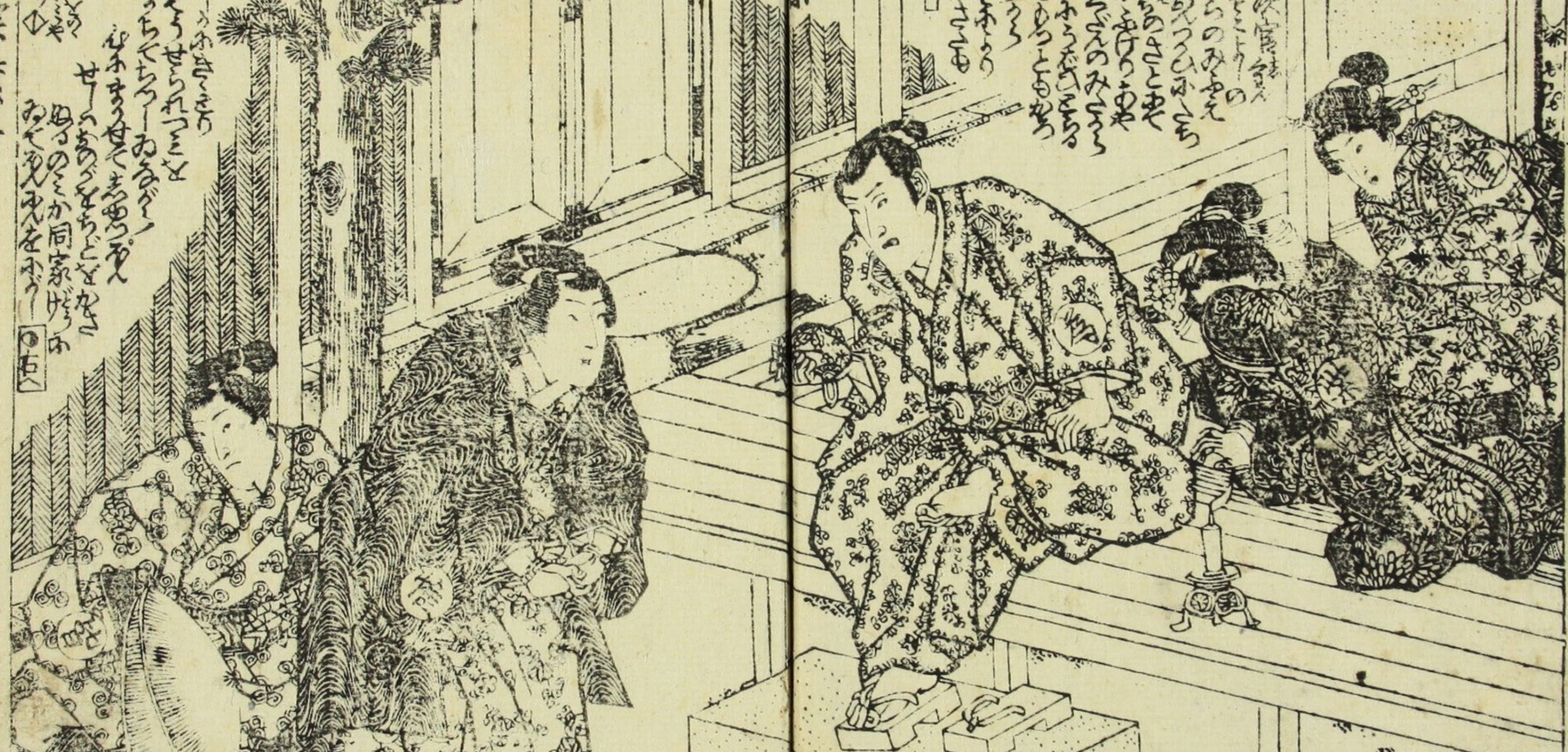
実世集

二

○その
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも

○此の
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも

○此の
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも



○左の
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも

○此の
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも

○此の
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも
おのれは五門位
の御座り候
と云ふも

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る



△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る



△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る
△江戸の香が焼くは入る

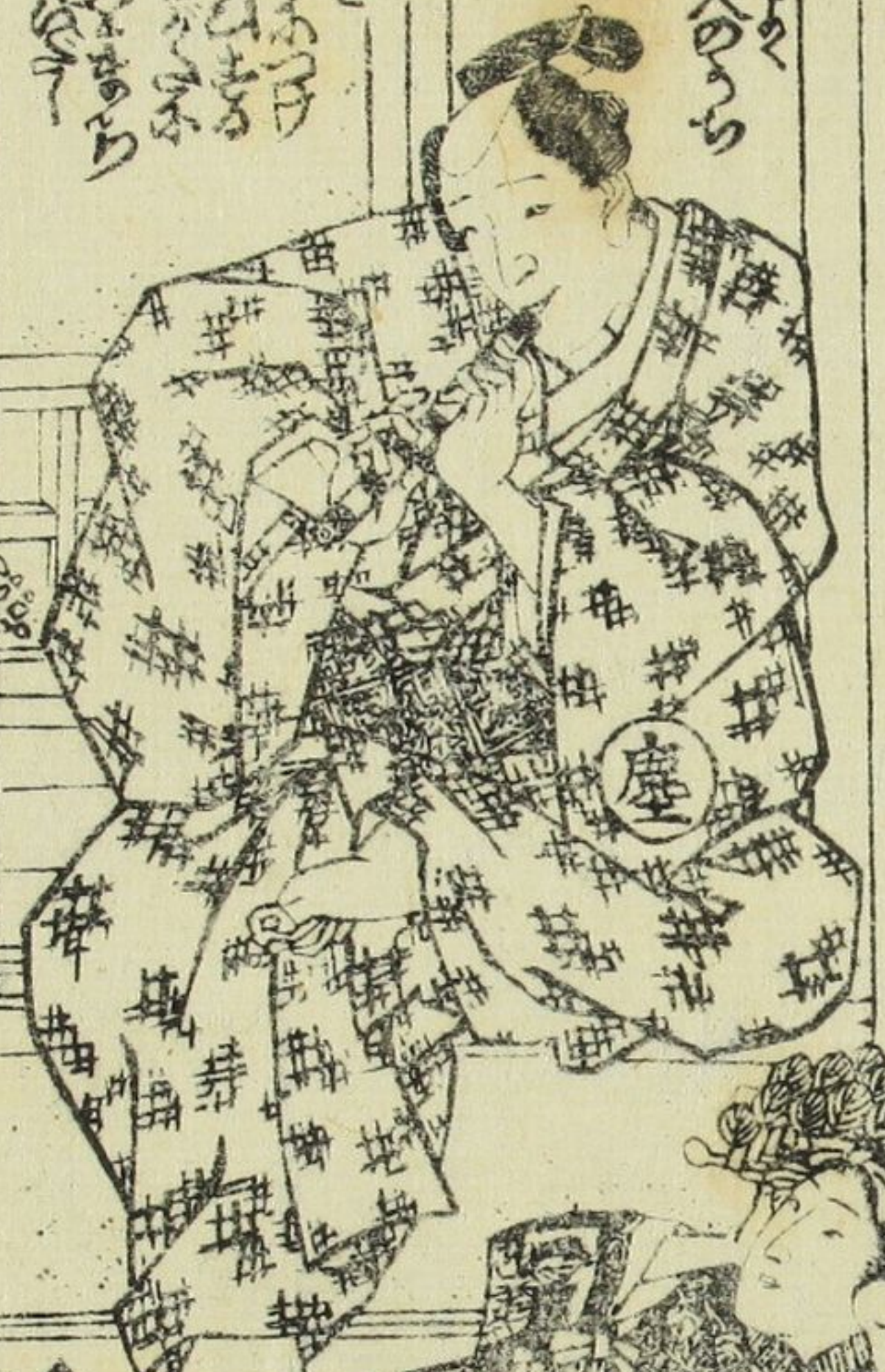
「目入」のちりとも
あつちのちりとも
たひのちりとも
ひまのちりとも
ひまのちりとも
ひまのちりとも

標 籠 仔
たつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも

あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも



あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも



あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも



あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも

あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも
あつちのちりとも



Handwritten text in the upper right corner, including characters like 中川 and 茶.

Handwritten text block on the right side of the illustration, near the standing woman.

Handwritten text block at the bottom right of the illustration, near the seated woman.

Handwritten text in the upper middle section, above the seated woman.

Handwritten text in the middle section, between the two women.

Handwritten text in the lower middle section, below the seated woman.

Handwritten text in the upper left corner, near the sliding door.

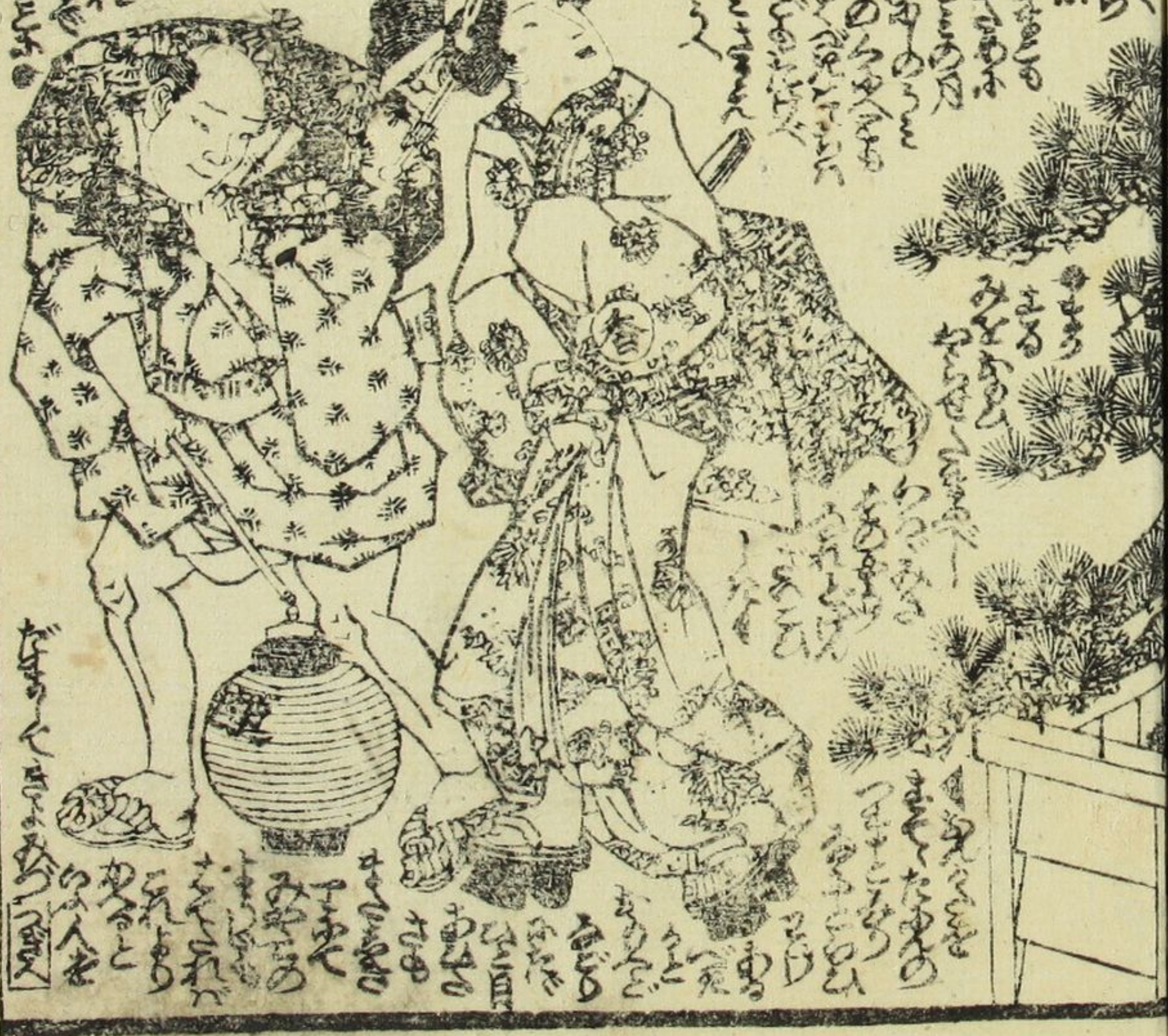
Handwritten text block on the left side of the illustration, near the seated woman.

Handwritten text block on the left side, near the sliding door.

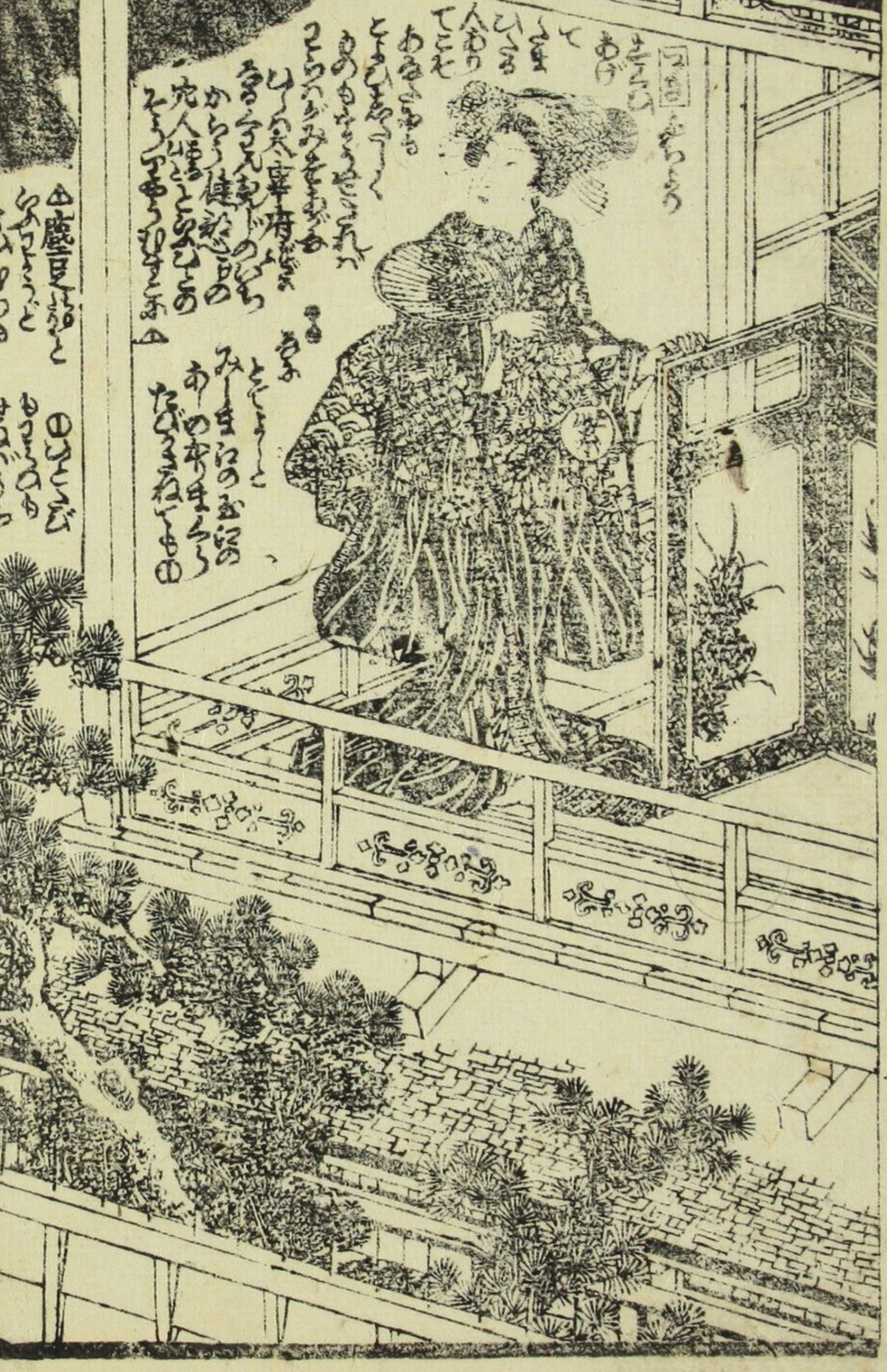
Handwritten text block at the bottom left of the illustration.

月夜に
 照らす
 月影
 清く
 涼し
 風を
 感じ
 懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

昔の
 人あり
 かな
 懐かし
 思ふ
 人あり
 かな
 懐かし
 思ふ
 人あり
 かな



懐かし
 思ふ
 人あり
 かな



懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

懐かし
 思ふ
 人あり
 かな

Various columns of vertical Japanese text at the top of the left page, including characters like 花 (flower) and 鳥 (bird).



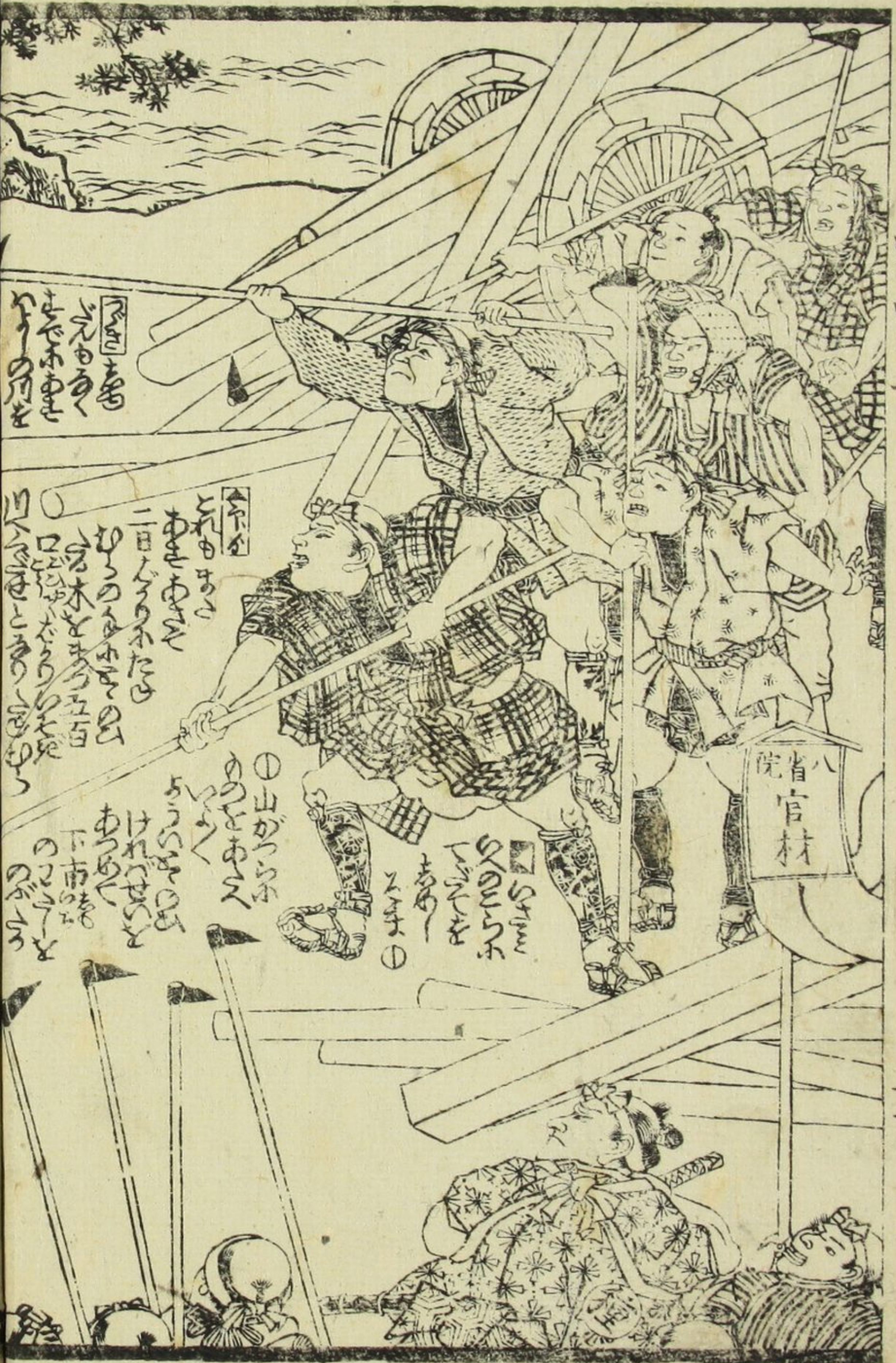
Vertical Japanese text columns located at the bottom of the left page, describing the scene and the figures.

Vertical Japanese text columns at the top of the right page, including characters like 山 (mountain) and 川 (river).



Vertical Japanese text columns located between the top and middle of the right page.

Vertical Japanese text columns at the bottom of the right page, continuing the description of the scene.



舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

八省官材院



舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

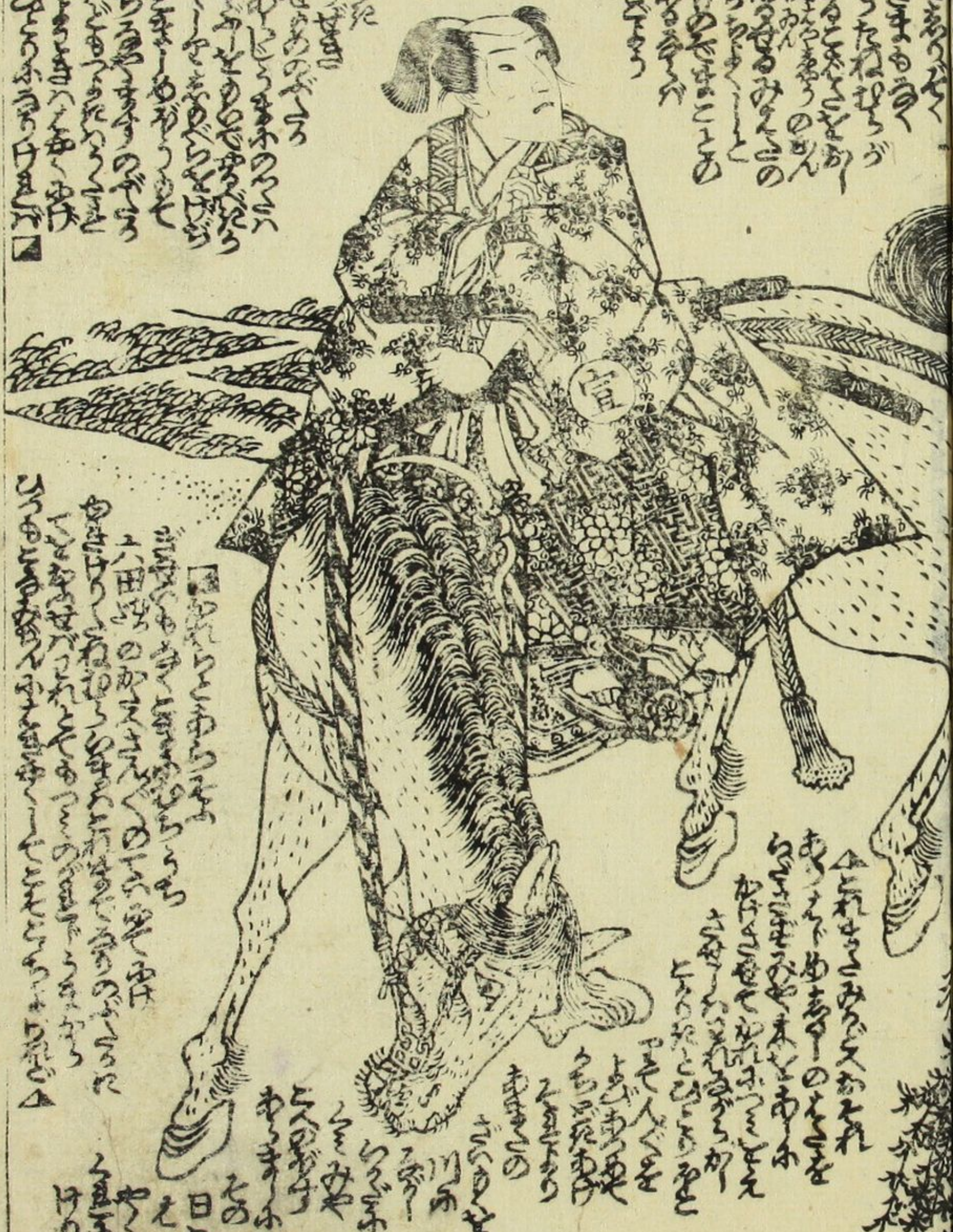
舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

舟のこぎ
こぎのこぎ
こぎのこぎ

〇色ゆかりのきりぎりすもてんがさうまの
 みやまどけられもそくかかけられたりも
 んのゆいこけるもそくかかけられたりも
 なるをまをたれられうちたをせとく
 たいゆのありさけひきさるのまひらち
 ちあきももえのくをちあけても
 とかかれのぶくの従者有りのも
 たちねきつれももりのひらち
 あきのもたれももりのひらち
 〇色ゆかりのきりぎりすもてんがさうまの
 みやまどけられもそくかかけられたりも
 んのゆいこけるもそくかかけられたりも
 なるをまをたれられうちたをせとく
 たいゆのありさけひきさるのまひらち
 ちあきももえのくをちあけても
 とかかれのぶくの従者有りのも
 たちねきつれももりのひらち
 あきのもたれももりのひらち

〇色ゆかりのきりぎりすもてんがさうまの
 みやまどけられもそくかかけられたりも
 んのゆいこけるもそくかかけられたりも
 なるをまをたれられうちたをせとく
 たいゆのありさけひきさるのまひらち
 ちあきももえのくをちあけても
 とかかれのぶくの従者有りのも
 たちねきつれももりのひらち
 あきのもたれももりのひらち

〇色ゆかりのきりぎりすもてんがさうまの
 みやまどけられもそくかかけられたりも
 んのゆいこけるもそくかかけられたりも
 なるをまをたれられうちたをせとく
 たいゆのありさけひきさるのまひらち
 ちあきももえのくをちあけても
 とかかれのぶくの従者有りのも
 たちねきつれももりのひらち
 あきのもたれももりのひらち



〇色ゆかりのきりぎりすもてんがさうまの
 みやまどけられもそくかかけられたりも
 んのゆいこけるもそくかかけられたりも
 なるをまをたれられうちたをせとく
 たいゆのありさけひきさるのまひらち
 ちあきももえのくをちあけても
 とかかれのぶくの従者有りのも
 たちねきつれももりのひらち
 あきのもたれももりのひらち

〇色ゆかりのきりぎりすもてんがさうまの
 みやまどけられもそくかかけられたりも
 んのゆいこけるもそくかかけられたりも
 なるをまをたれられうちたをせとく
 たいゆのありさけひきさるのまひらち
 ちあきももえのくをちあけても
 とかかれのぶくの従者有りのも
 たちねきつれももりのひらち
 あきのもたれももりのひらち

真田丸



御膳上

あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが
あんなに長い髪を束ねて
おかしな髪型にするのは
おかしな女に成るかも知
れないが

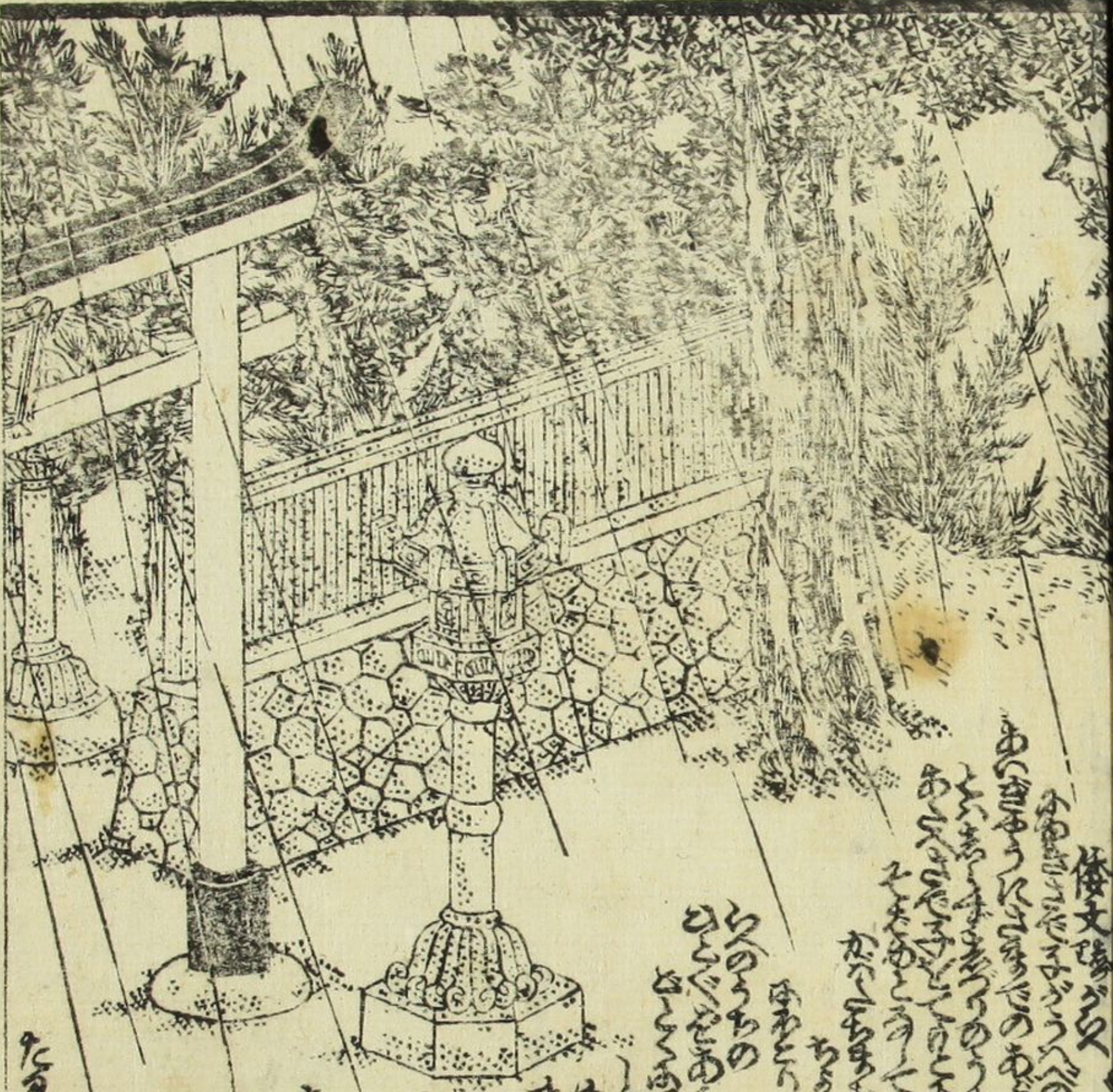
此の御用事には人の御用事
 かんがへての御用事とて
 まはりの御用事とて
 人の御用事とて
 まはりの御用事とて
 人の御用事とて
 まはりの御用事とて

此の御用事



此の御用事には人の御用事
 かんがへての御用事とて
 まはりの御用事とて
 人の御用事とて
 まはりの御用事とて
 人の御用事とて
 まはりの御用事とて

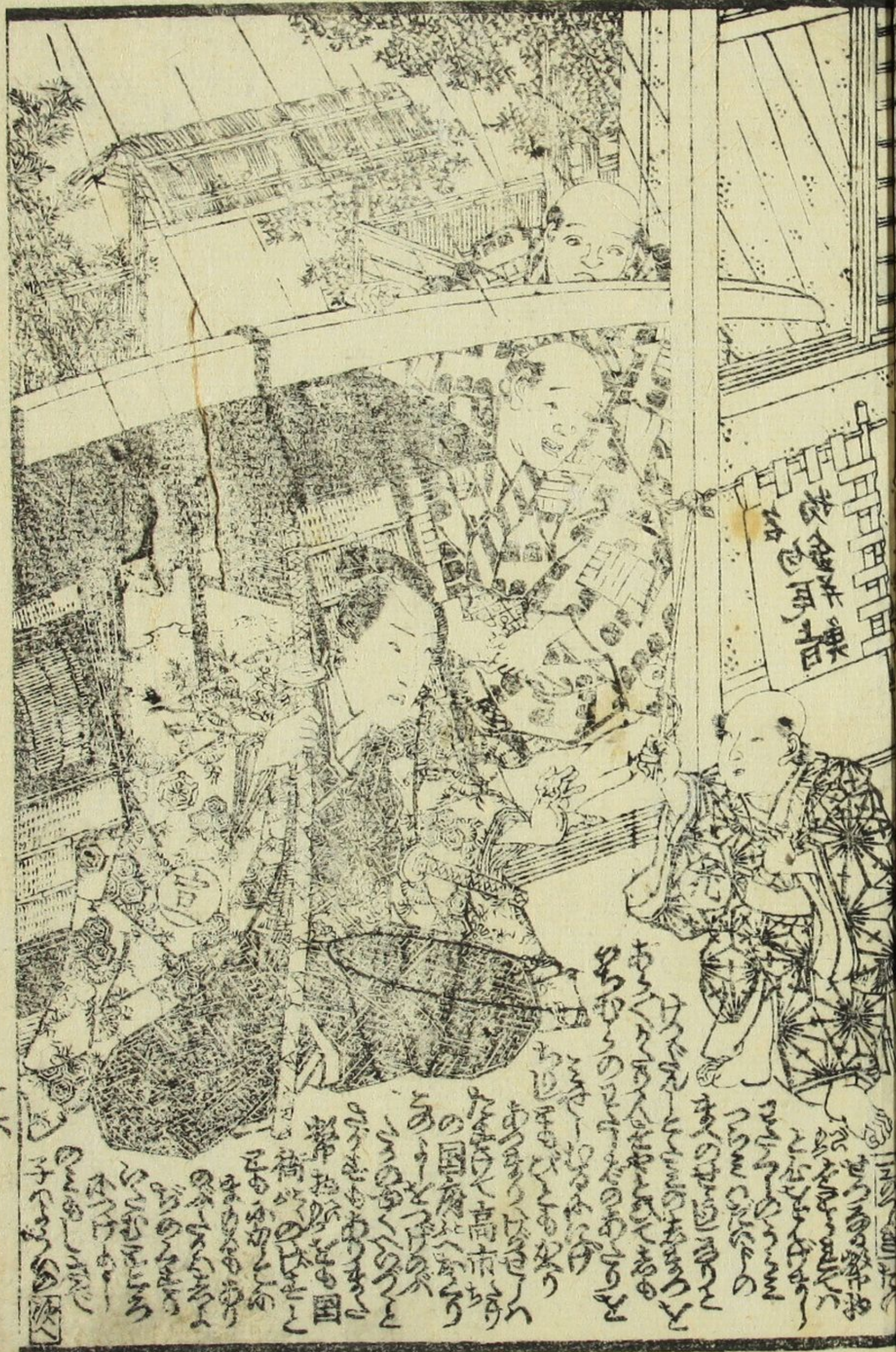
此の御用事



此の御用事には人の御用事
 かんがへての御用事とて
 まはりの御用事とて
 人の御用事とて
 まはりの御用事とて
 人の御用事とて
 まはりの御用事とて

此の御用事

此の御用事



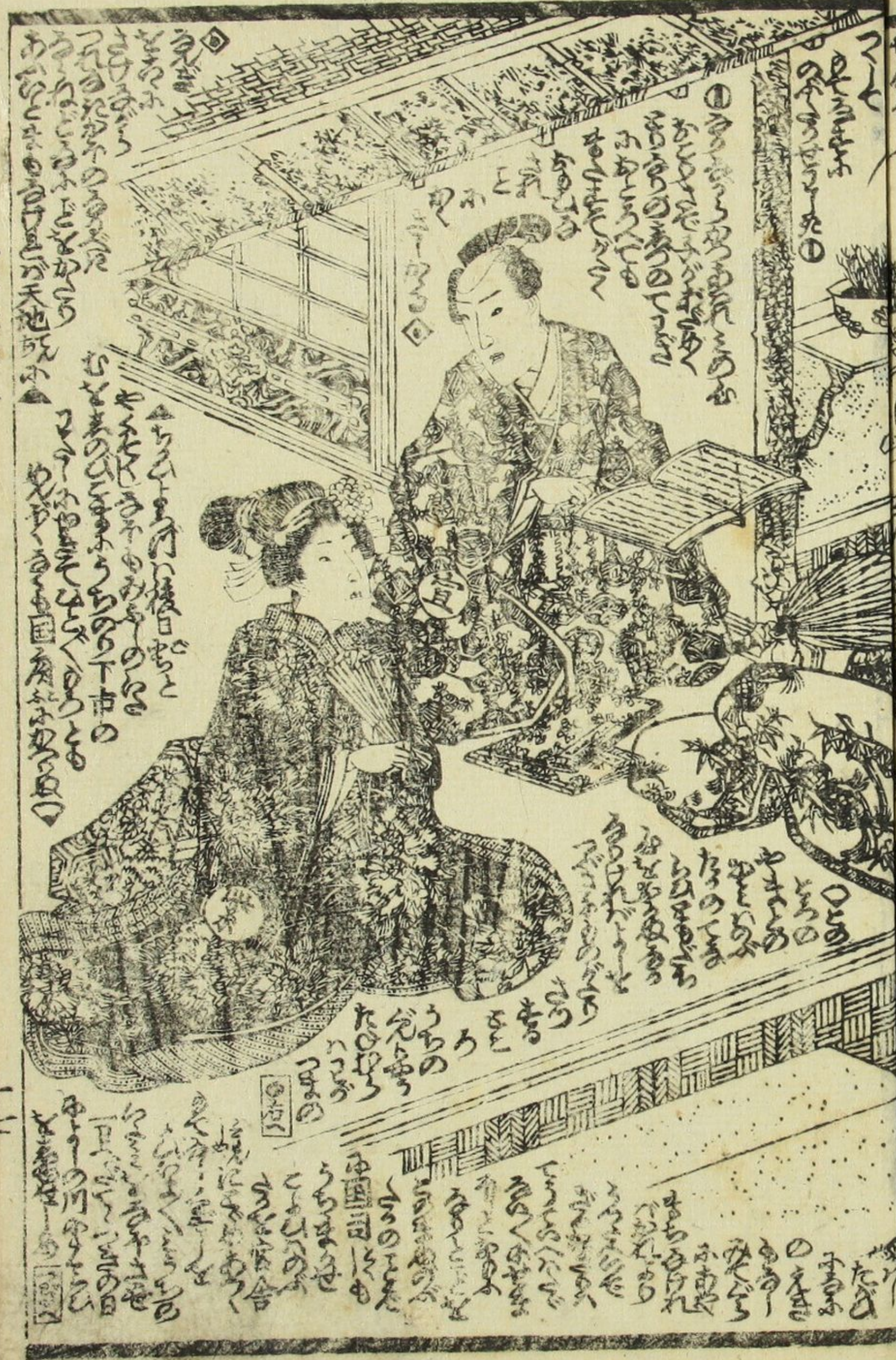
あつちの町は、
 高市城の
 園内には、
 多くの
 石燈籠が
 立ち並び、
 静かな
 雰囲気が
 漂っている。
 この町は、
 古くから
 栄えた
 町で、
 多くの
 参詣者が
 訪れる。
 その理由
 は、この
 町に
 ある
 寺の
 縁起が
 長きに
 わたって
 続いている
 からである。
 この寺は、
 高市城の
 守護神と
 して、
 多くの
 参詣者を
 集めてきた。
 その歴史は、
 数百年に
 わたり
 続いている。
 この町は、
 自然の
 美しさも
 また、
 人々の
 温かい
 おもてなし
 があるから
 である。
 この町を
 訪れる
 人は、
 必ずしも
 寺を訪ね
 なくても、
 この町
 の風景
 を楽しむ
 ことができる。
 この町は、
 訪れる
 価値
 がある
 町である。
 この町を
 訪れる
 人は、
 必ずしも
 寺を訪ね
 なくても、
 この町
 の風景
 を楽しむ
 ことができる。
 この町は、
 訪れる
 価値
 がある
 町である。



あつちの町は、
 高市城の
 園内には、
 多くの
 石燈籠が
 立ち並び、
 静かな
 雰囲気が
 漂っている。
 この町は、
 古くから
 栄えた
 町で、
 多くの
 参詣者が
 訪れる。
 その理由
 は、この
 町に
 ある
 寺の
 縁起が
 長きに
 わたり
 続いている
 からである。
 この寺は、
 高市城の
 守護神と
 して、
 多くの
 参詣者を
 集めてきた。
 その歴史は、
 数百年に
 わたり
 続いている。
 この町は、
 自然の
 美しさも
 また、
 人々の
 温かい
 おもてなし
 があるから
 である。
 この町を
 訪れる
 人は、
 必ずしも
 寺を訪ね
 なくても、
 この町
 の風景
 を楽しむ
 ことができる。
 この町は、
 訪れる
 価値
 がある
 町である。
 この町を
 訪れる
 人は、
 必ずしも
 寺を訪ね
 なくても、
 この町
 の風景
 を楽しむ
 ことができる。
 この町は、
 訪れる
 価値
 がある
 町である。

あつちの町

あつちの町

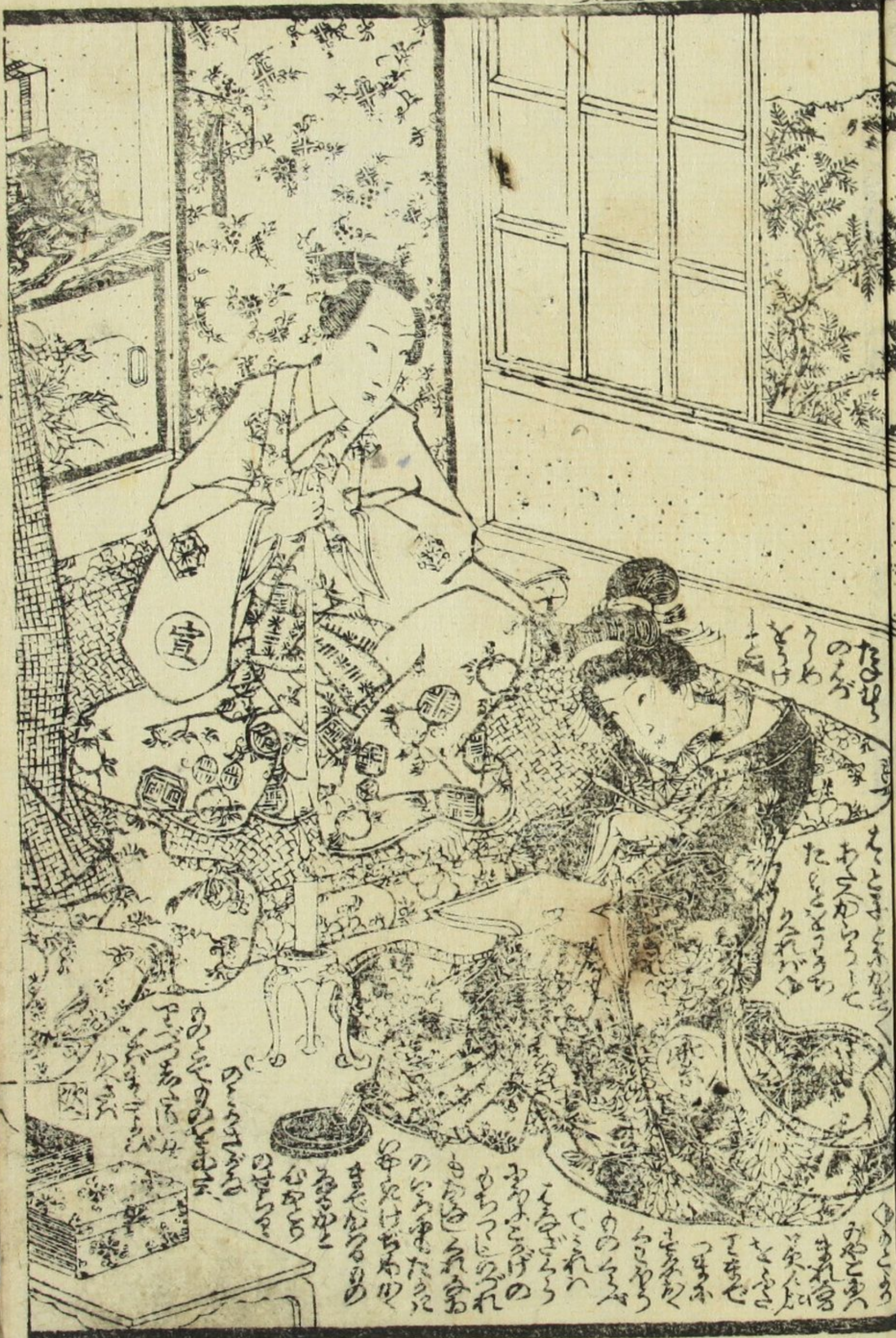


此の書物は

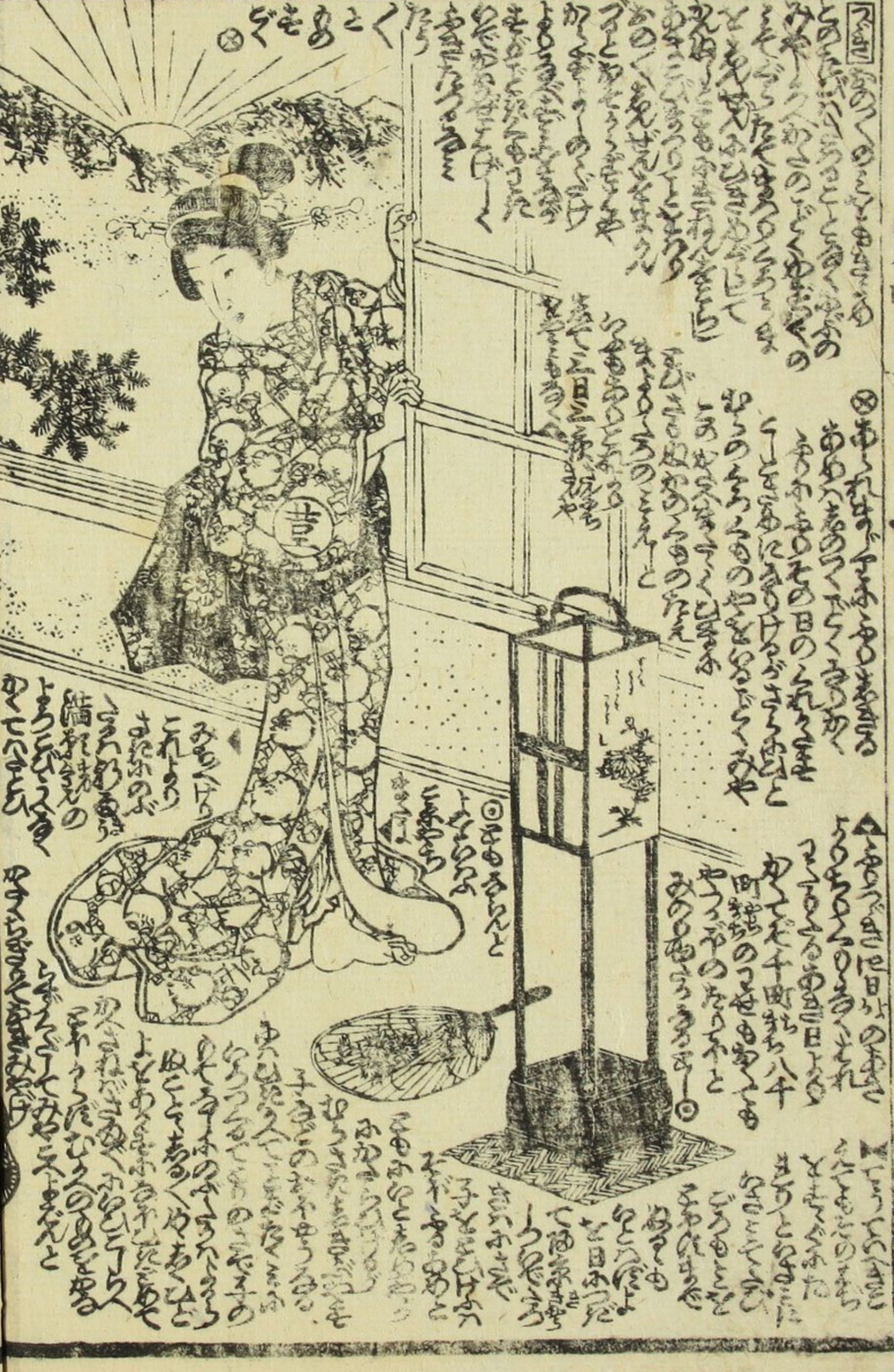
野

野

野



Vertical text on the left margin of the first page.



Vertical text on the right margin of the second page.

Handwritten Japanese text at the bottom of the first page, including the characters '福' (Fortune) and '吉' (Auspicious).

Handwritten Japanese text at the bottom of the second page, including the characters '福' (Fortune) and '吉' (Auspicious).





仙果
 陳以
 地
 仙果
 陳以
 地
 仙果
 陳以
 地

仙果
 陳以
 地
 仙果
 陳以
 地

十返舎一九作
滑稽道中膝栗毛

柳水亭種清作

不思議塚小説櫻

同
風俗淺間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚

五篇大尾

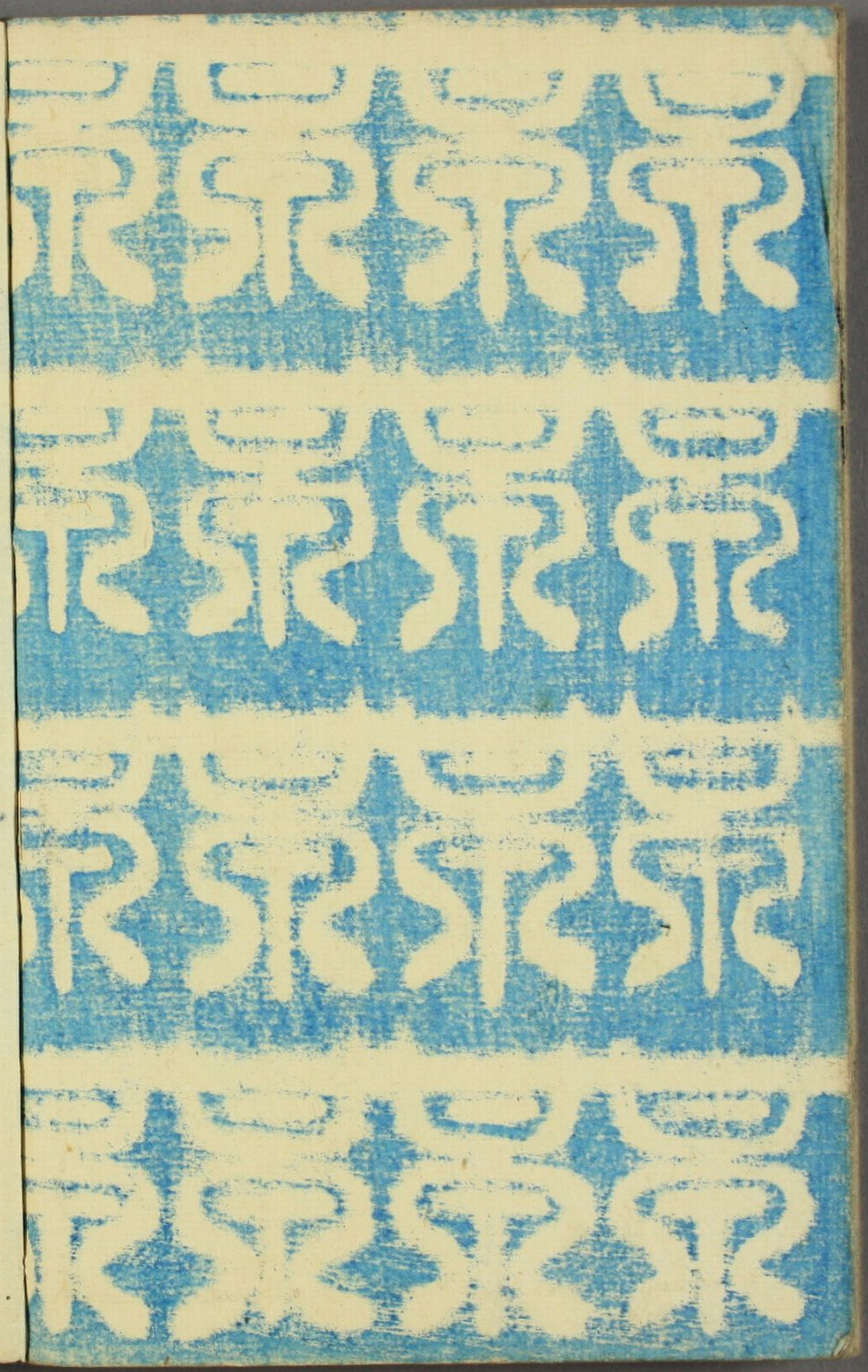
柳水亭種清作
豊時田秋波新雁

柳水亭種清作

同
狂田姉妹新白石

出辰人
山中喜太郎

赤穂五銀座四丁目三番地



曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

同

女郎花五色石臺

十篇大尾

同

小女郎知怨芋環

三篇大尾

柳下亭種員作

兒雷也豪傑譚

為永壽水作

黃金水大盡盃

柳亭種員作

琴聲義人錄

豐亭仙果作

根源寶案

柳煙亭種員作

假名
一休草紙

八册之四
林惠津